

猪苗代 と アルツ磐梯 スキー報告

【山 域】猪苗代湖周辺

【日 程】2019年3月9日（土）～10日（日）

【参加者】CL 柘植（記録）・村尾・渡辺純

個人的には3週連続のスキー。すべて東北道からアプローチのスキー場ばかりだが、関越道や上信越方面と違って距離は多少遠くても渋滞などはほとんどないため時間的には早いのが大きなメリットだ。今回は自分が行ったことのない福島県のスキー場ということで、猪苗代とアルツ磐梯を訪問した。

【記 録】3/9(土) 猪苗代スキー場

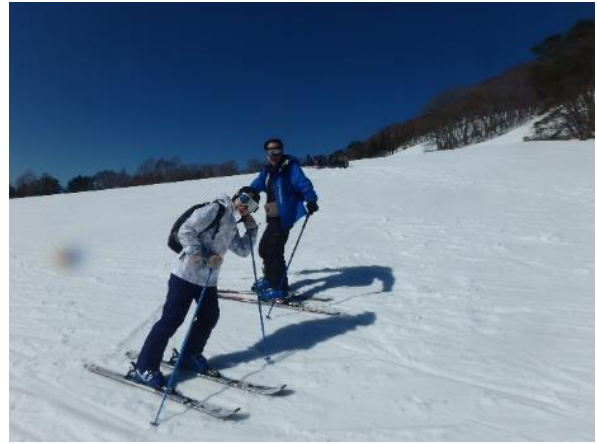


千葉(事務所)で前夜泊の渡辺純さんを拾い、4:40に出発。スキー場ふもとの宿(民宿えびすや)には9時前に着いた。ここからゲレンデまでは結構な距離があるが、自分のクルマで行くと1日1,000円の駐車料金を取られるが、宿で宿泊者向けの無料の送迎サービスを行っているので、それを利用してもらい、マイクロバスでゲレンデに行く。猪苗代スキー場は下から見上げて大きく右側と左側に分かれているが、コース数がそんなに多いわけではないので、休憩までの最初の2時間で全部滑れそうだねとか話す。上級コースは左右のゲレンデにあるが、左ゲレンデのコースは閉鎖されており、右ゲレンデしか行けなかった。ただ右ゲレンデの最上部は非圧雪のこぶこぶゲレンデで柘植としてはもっとも苦手というか好きになれないコース。一応3人で1回だけ滑ったが、1回でいいやという感じであとはそこ以外を繰り返し滑っていた。猪苗代は真南を向いたゲレンデで日当たりがよく、雪量や雪質に懸念を持っていたが、当日は快晴で気温も高く、そのため景色は最高だったがやはり雪質は良くなかった。板にまとわりつくような感じで一応なんとか滑ってますという感じ。それでもせっかく来たのだからとお迎えのクルマの来る16時まで目一杯滑る。

宿は部屋数も多く、かなりの規模の民宿だが、宿泊客はあまり多くなく、とくに素泊まり客が多いとのことで、食堂で食べていたのは我々3人のほかはお一人様客が2組だけであった。聞いてみるとやはり猪苗代スキー場の最盛期(雪質がよく量もたっぷりあってもっとも賑わう時期)は1月末～2月中旬くらいだそうで、3月は春スキーの気持ちで来ないとダメなようだ。大規模民宿だけあって風呂はゆったりで、3人宴会と夕食のあと再度各自持ち寄りのアルコールで親交を深めた。



猪苗代湖を眼下に



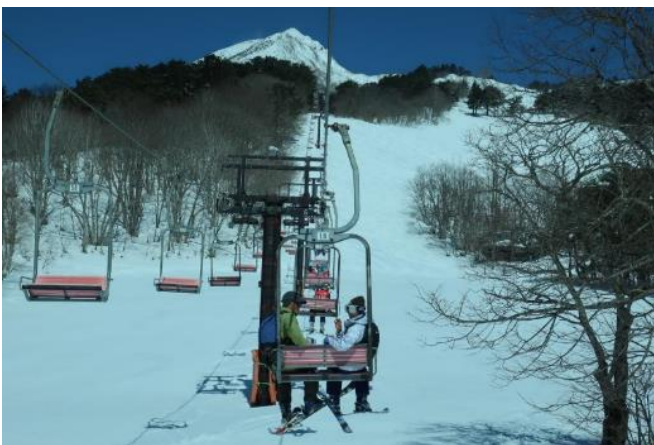
この空の青さを見よ



渡辺純さんの軽快な滑り



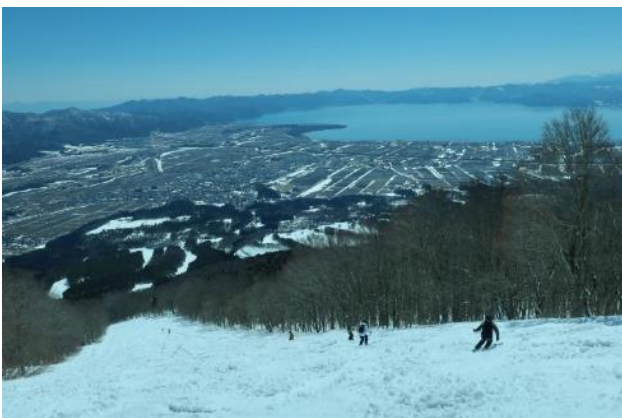
村尾さんも快調



リフトの正面は磐梯山



ゲレンデ食堂で乾杯



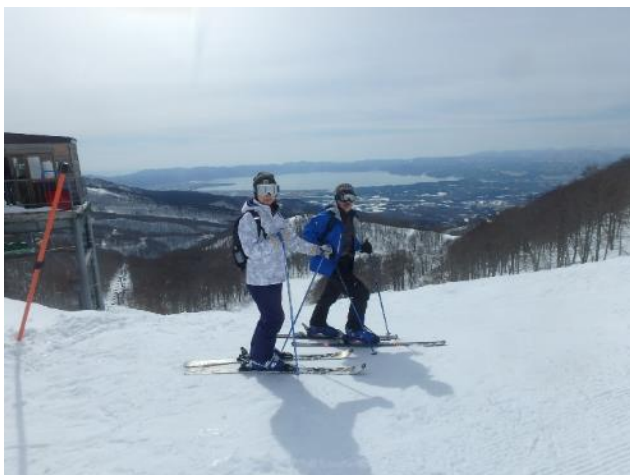
荒れた上級コースにチャレンジ！



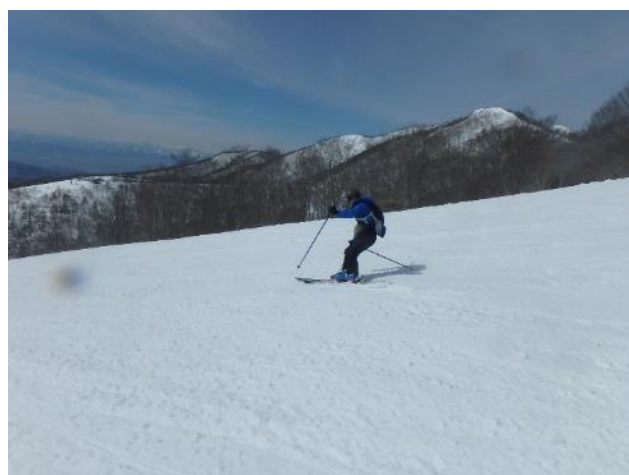
人も少なくなった夕方のゲレンデ



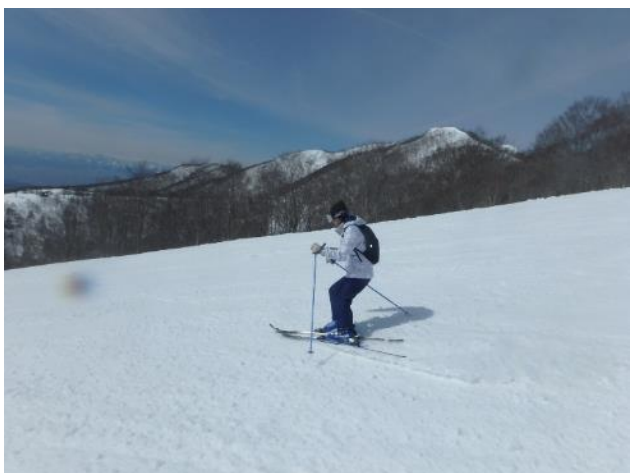
現地に泊まっているメリットを活かし、早出して8:10にはゲレンデに着く。リフト運行は8:30からなのでまだ閑散としているかと思うと駐車場はもうかなりの賑わい。ゲレンデマップを見てもコースは非常にバリエーションに飛んでおり、アルツ磐梯がこのエリアの代表的なスキー場であることが分かった。ここのスキー場は大きくエリアが4つに分かれており、それぞれ特色のあるコースを取り揃えている。ここの午前中の雪質はよかった。もちろん厳冬期のパウダーには程遠いが、昨日との比較ではずっと滑りやすかった。



今日も好天、猪苗代湖が斜めに見える



村尾さん

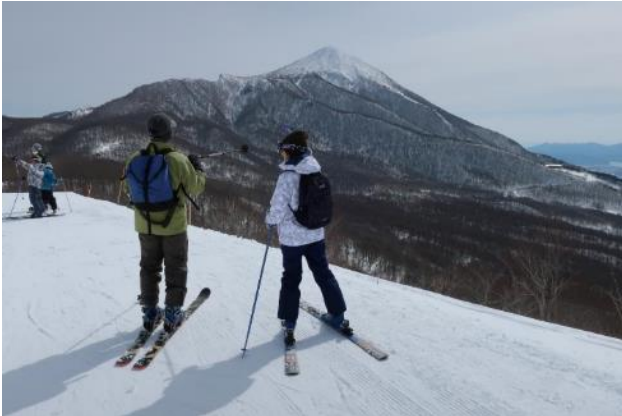


渡辺純さん



柘植

気をよくして3人で次から次へとコースを乗りうつっていく。15時まで滑ったが、11:20~12:00までの1回の昼食休憩を挟んだだけで、午前3時間、午後も3時間、疲れを知らずといたいところだが、午後は疲れを押し切って頑張った。村尾さんと渡辺純さんは今期最後のスキーということだったが、最後のゲレンデがこのような充実した内容で本当によかったと思う。



リフトトップから磐梯山を横から眺める



帰り間際の車中から磐梯山

山行報告：柘植 秀樹